

学校評議員会・学校関係者評価委員会（記録）から

2月8日に行われた学校評議員会・学校関係者評価委員会で話し合われた御意見、御感想を紹介いたします。話合いの前に授業参観しいていただきました。その御感想も含みます。

- 授業参観では子供たちが落ち着いて学習していました。集中できていると感じました。協働型重点も子供たちから「あったか言葉」を意識しているのが伝わってきた。今後は、「あったか言葉」に関して「自分が使った言葉、言われた言葉」を振り返り、「あったか言葉」を使うことで、うれしくなり、友達関係にどんな変化があるか、また、将来的に人間関係でどんな影響があるのかを検証できると良いのではないかと。
- インリーダー研修会でも頑張っている姿を見る。ジュニアリーダーや吉ボラ隊を手本に、自分の良さを発揮できるようにこれからも取り組んでもらいたい。地域の人的財産を活用して取組が学校でも多いので、人とのつながりを大切にしていってほしい。
- 「あったか言葉」の取組はとても良い。言われても気持ち良いし、自分から発する心地良さもある。人生が楽しくなると思う。授業参観では、5年生の情報教育でSNSの危険性について学習をしていた。社会で問題となっていることを授業で取り組むのは良いと感じた。
- 挨拶をした後に何か言葉を掛けることで、子供たちからの反応が違うので、「あったか言葉」の声掛けは有効だと思う。
- 教育活動アンケートの保護者からの記述に「親や大人が手本となる」というものが多くあり、うれしく思う。研修会等で、「足りないところを補うような指摘より、優れているところを認めていく方が子供を伸ばすのに効果的である」ということを学んだ。お互いに認め合う機会を増やしていくと良い。地域とのつながりも大切にし、保護者だけでなく地域も子育てに協力していくことを伝えていきたい。
- 登下校でけががあった場合には、学校に連絡をして対応してもらっている。けがが起きた現場で、児童が集まってきたり、走って学校に連絡に行こうとしたりするなど、事故やけがを目撃したときの対応についても学校で指導してもらおうと二次災害のような危険がなくなると思う。

全体で話題となったこととして「自己肯定感を高めるためにどうしたら良いか」について

- ・子供たちのアンケート結果から、学年が進み高学年になるほど自己肯定感が低くなっている。
- ・自己肯定感が低いのは、仙台市生活状況調査の結果からも仙台市全体の傾向と言える。
- ・全国レベルで考えると、吉成小の結果は良い方に当たるかもしれない。
自己肯定感が低いのは、外国に比べると日本人の謙虚さ（日本人の国民性）が影響しているかもしれない。自尊感情をどう育むかと言うことにつながる。基本的には、親子の愛着感情はどうか。社会的には褒められたことや認められた経験があるかどうかが大きく関わると思う。20代の死亡原因で一番多いのは自死である。思春期の子供たちとの関わり方や地域の方々との触れ合いが効果的である。
- ・大人の方が自己肯定感は低いかもしれない。
- ・ジュニアリーダーの活動や地域での活動で認め、自信を付けられるような声掛けが必要かもしれない。